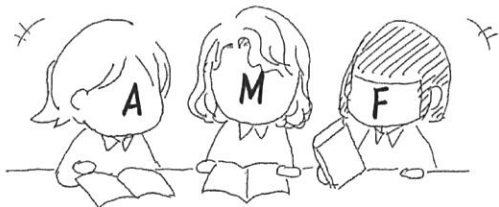


～夏休みの宿題～

F「というわけで、今回のテーマは夏休みの宿題。……今となっては懐かしい」
 M「Aさんは夏休み開始1週間で全てを終わらせてそうね」
 A「そんなことないです！ ドリル系はさっさと終わらせてたんですけど、作文や自由研究は8月末になってました……。作文苦手なんですよ〜」
 F「意外だ！？ いつもブログとか意気揚々と書いてるから、このメンバー全員作文得意なのかと思ってました」
 A「**本を読むのは好き、感想は書きたくない**といったところでしょうか」
 M「早くも今日の名言が出たわね。夏休みの宿題といえば、私は**薬草採集**とかやったかな〜」
 A&F「「？ なんですかそれ？」」
 M「その名の通り、薬草を集めるのよ。ドクダミとか。」
 F「……集めて……それで？」
 M「干す。」
 A「干して……どうするんですか？」
 M「学校に提出する。で、重さごとにランキングというか、順位がつくのよね」
 A「初めて聞きました、そんな夏休みの宿題」
 M「ちなみに、生徒が集めた薬草がその後どうなっているかは謎である」
 F「気になるなあ（笑）」
 M「あとはポスター類かしらね……」
 A「あ〜。描きました。作文よりはポスターのほうが好きでした、私」
 F「ドリル類と違って一枚書けば終わりますからね。一日で終わらせることが可能」
 M「……。(ついっ)」
 A「……急に目線をそらした人がいますね。何か思い出が？」
 F「M先輩は絵がお得意じゃ……(過去のM先輩直筆四コマを思い出す)……あー」
 M「あーってなによ！ そうよ不得意よ！ ポスター書いて特選とかもらってた姉を横目で見ながら育ったわよー！ 私はできない子……！！ うっうっ。」
 F「何をおっしゃいます、あんなに華々しく本誌で4コマ漫画家デビューされたじゃないですか！ 自分に自信を持って！ **よっ、期待の大型新人！**」
 A「そうですよ。私はM先輩のマウス画好きですよ！ なんというか……**味があって？**」

M「褒められてる感じがしない！！」
 F「さて、老若男女問わずみなさんからの夏休みの思い出もお待ちしております。ぜひホンダラケポストに投稿してね♪ よい夏休みを！」



ホンダラケ

H29.08.01.

夏だ！ ああっ怖い本が読みたああい！
<http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>

ほらほら♪ホラー♪

毎年恒例ホラー特集がやってきました。今年の棚はどんな演出で皆さんをお迎えしようかしら♪身の毛もよだつ!!うおっ

どこの家にも怖いものはいる

三津田信三 中央公論新社 2014年刊 F/ミツ



ホラー作家のもとに偶然届いたいくつかの不思議な話。時代も場所もバラバラなそれらの話のはずなのに、どうしてどうしてつながってる!?一つ一つは単に不思議な話、だけど全部をひとつだと考えてみると、見えてくるものは……恐怖。あなたの家にも少くく不思議な話はあるんじゃないかしら。見過ごして大丈夫？語り手は作家本人。そして巻末の参考文献を見て、さてこの話が本当にフィクションなのかどうか判断するのはあなたです。……どう思う？

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。
 本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。（もちろん、大人の方も読みいただけます）
 2か月に1度、年6回発行予定です。
 皆様が手に取りたくなる誌面にしてまいります。ご期待ください。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

グリックの冒険

斎藤惇夫著 数内正幸画 1988年刊 岩波書店 N/サイ



主人公のシマリスのグリックは、ペットとしての不自由な生活を脱し、ドブネズミのガンバと共にクマネズミとの戦いに挑みます。

この本は僕が子どもの時に両親に読み聞かせをしてもらい、毎晩続きを楽しみにして、とても興奮したのをよく覚えています。先日、本棚にあった本を見つけ、懐かしく一気に読み切りました。皆さんも童心に戻って読んでみて下さい。

紹介者：じーわい（高校1年生）

鉄道・バス・カメラが好きになった純粋な高校生。阪急バスを貸切るなどなにかとアクティブ！ ライトノベル系小説に魅せられて早3年、全面的にライトノベルを推していきます。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

～夏だ！過去の課題図書を読もう～

路上のストライカー

マイケル・ウィリアムズ作 さくまゆみこ訳 岩波書店 2013年刊

2014年、高等学校の課題図書です。はっきり言おう、この本、読んで、しんどい。というのも、主人公デオにふりかかる苦難の連続があまりにも辛いのだ。故郷ジンバブエで虐殺にあい、逃げるためにライオンがうろつく自然保護区の中を突っ切り、やっとたどりついた外国では安い賃金で働かされ、差別にあい、肉親を失い、そして……。

夢も希望も失ったデオに唯一残ったのがサッカーボール。貧しくてもボール1個さえあればできるスポーツ・サッカーで、デオは自分の運命を切り開けるのか？

読めば色々考えざるをえない内容だけに、感想文は書きやすそう。それにしても、すごい現実だなあ……



933/ウイ

新着本 Pick Up

ガラスの封筒と海と

アレックス・シアラー作 金原瑞人・西本かおる訳 求龍堂 2017年刊



933/シア

主人公のトムが、ラジオから流れてきた歌に触発され、ガラスびんに手紙を入れて海へ流すところから物語は始まります。誰かが見つけて、返事をくれるかもしれないと期待し、毎日海を眺め続けるトム。ついに届いた返事はなんと不思議なものだった。手紙の相手とやりとりを重ねるうちに驚きの事実が……。海辺の町で起こる奇跡。温かいファンタジーです。

YA新着本

請求記号	タイトル	作者名
816/17	13歳から身につける一生モノの文章術	近藤 勝重
F シミ	ありえない青と、終わらない春	清水 莓
F モモ	5秒後に意外な結末	桃戸 ハル
F ヨシ	ラブリー！	吉田 桃子

名作を紹介するコーナー

『フランケンシュタイン』 シェリー

小林章夫：訳 光文社 2010年刊

「創造主たるおまえが、被造物であるこのおれを

嫌い、拒否するのか。」

天才科学者フランケンシュタインは生命発見の原因を発見し、生命の通わぬ物質に生命を与えることに成功する。しかし誕生したのは恐ろしい外見をした「怪物」だった。フランケンシュタインは恐ろしさに耐えられず逃げ出してしまふ。「怪物」は人間の理解と愛を求めると恐れられ、拒絶されて……。恐怖小説というよりは、登場人物たちの不幸や理解を求めても得られない怪物の苦悩など、全編を通して悲しい印象の強い作品です。怪物と博士はどうなるのか。ぜひ結末を見届けてください。それにしてもフランケンシュタインって、怪物をつくった博士の名前だったんですね。



933/シエ